

公益財団法人日本バスケットボール協会

2024 年度 7-6 月期事業報告

事業の概況

2024 年度はパリ 2024 オリンピックが開催され、日本代表は 5 人制の男女のカテゴリーが出場した。男女とも予選プールでの敗退となったが、特に男子は銀メダルのフランス代表をあと一步のところまで追い詰め、その活躍は世界を驚かせるところとなった。今後は、3 人制も含め、世界で継続的に戦える日本代表の競技力向上を図り、ロサンゼルス 2028 オリンピックへの全カテゴリー出場を目指す。

また、今年度は「Japan Basketball Standard (JBS)」の中間レビューを行い、JBA 創立 100 周年 (2030 年) を見据えた「JBS2025」を制定し、バスケットボールファミリーが目指すべき方向性を打ち出した。ファーストスポーツ/生涯スポーツ/女性参画の推進によるバスケットボールファミリーの拡大、ICT 技術の導入や DX 化の推進、暴力暴言等ハラスメントの根絶など、JBA としての重点方針が盛り込まれているほか、「バスケットで日本を元気に！」する未来予想図となるビジョンマップも策定し、JBA のみならず、加盟団体、参加団体、協力団体とも共有し、オールバスケットボールで JBA の理念の体現を目指すものとなっている。

JBA の 2024 年度当初予算計画では約 3.6 億円の赤字予算を組んでいたが、決算としては、6.7 億円の黒字となった。電通との大型ミニマムギャランティー契約が終了し、収益の大幅な減少が予想された中で期初予算を上回る収益増を達成できたこと、各部署における月次予算の管理意識を高めて経費削減を推進したことが寄与した。

【参考】2024 年度 7-6 月期の重点実施事項（「2024 年度 7-6 月期事業方針」より）

- ① パリ 2024 オリンピックにおける日本代表の躍進に向けた強化試合の実施及びサポート体制の拡充
- ② ジャパン・バスケットボール・スタンダード (JBS) の中間レビューと JBA 創立 100 周年 (2030 年) を見据えた施策プランの更新
- ③ 世界で継続的に戦える日本代表の競技力向上に向け、一気通貫の指導理念に基づく次世代の代表選手の強化・発掘・育成の推進
- ④ 暴力暴言等ハラスメントの根絶の実現のため、指導者向け/PBA（都道府県バスケットボール協会）向けを始めとする各種研修を充実させ、予防活動を推進
- ⑤ バスケットボールファミリー拡大に向けたファーストスポーツ/生涯スポーツ/女性参画の推進
- ⑥ 業務改善と幅の広い情報発信に繋がる ICT 技術の導入、活用と DX 化の推進
- ⑦ FIBA 主催の大規模国際競技会の日本開催に向けた誘致活動の推進

活動報告（概況）

【1】日本代表関連

1. 男子日本代表活動概況

男子日本代表は、前年度に引き続きホーバス HC（ヘッドコーチ）体制の下、チームの強化を行った。2024 年度は FIBA ワールドカップ 2023 にてアジア 1 位となりパリオリンピック出場が決まっていたため、オリンピックに向けての強化を行った。夏の国際強化試合などを行いパリオリンピックに挑んだが、3 戦全敗で予選グループ敗退に終わった。しかし開催国のフランスとは延長戦までもつれ込む戦いとなり、次なる男子日本代表の兆しが見えた大会となった。また、アジアカップに向けた window も行われ、5 勝 1 敗でグループ 2 位となり、アジアカップ本戦出場を決めた。

男子アンダーカテゴリー日本代表は、U18 アジア選手権で 7 位となり U19 ワールドカップへの出場を逃したが、各カテゴリーの強化活動が進んでいる中での連携もスムーズになってきており、今後も更なる強化を図っていく。また A 代表に繋がる強化の一環として、B 代表強化の体制構築を推進していく。

2. 女子日本代表活動概況

女子日本代表は、前年度に引き続き恩塚亨 HC の下 2024 年度の活動を開始し、まずはオリンピック世界最終予選にて出場権を勝ち取ったパリオリンピックに向けた強化を進めた。パリオリンピックでは、東京オリンピックでの銀メダルを超える結果を出すべく挑んだが、3 戦全敗で予選グループ敗退に終わった。この結果を受け、新たに体制を変更してコーリージャパンを発足し、これまで作り上げてきたスタンダードを超えるチーム作りに力を注ぎ、アジア王者奪還に向けた活動を開始した。

女子アンダーカテゴリー日本代表は、ユニバ日本代表チームとしてウィリアムジョーンズカップに参加し全勝優勝、U17 ワールドカップでは準々決勝でアメリカに敗戦、5 位決定戦でもオーストラリアに敗れ、6 位で大会を終えた。2025 年度にはワールドユニバーシティゲームズ、U19 ワールドカップ、U16 アジアカップが控えているため、これまでの結果を超えられるよう更に各カテゴリーの強化を図っていく。

3. 3x3 男子日本代表活動概況

パリオリンピック出場を逃した 3x3 男子日本代表（A 代表）にとつての 2024 年度は、ロサンゼルス 2028 オリンピック出場を見据えて、東京オリンピックから継続してきた 5 人制バスケットボールとの一体型強化体制について見直し、「世界転戦」「長期的・継続的」「同一メンバー」というポリシーの下、新たなチーム編成で 2025 年 3 月の FIBA 3x3 Asia Cup、2025 年 6 月の FIBA 3x3 World Cup 2025 での上位進出を目標に活動に取り組んだ。

シーズン最初の大会となった Asia Cup では、年間を通して 3x3 を主戦場とする選手でチームを編成、予選プールでは前回大会優勝のオーストラリア、準優勝のイランと同一グループとなり厳しい戦いが予想されたが、2 試合ともノックアウトで勝利。準決勝で中国、3 位決定戦でニュージーランドに敗れたものの、2018 年以来のベスト 4 進出という好成績を残すことができた。小澤選手は FIBA 3x3 歴代最高の 1 試合 20 得点をマークするなどの活躍で大会ベスト 3 に選出され、以降、日本代表が注目される大会となった。続く World Cup にも Asia Cup と同じメンバーで臨み予選プールを突破したが、決勝トーナメント進出を賭けた PLAY-IN でプエルトリコに敗れ、最終順位は 12 位となった。

アンダーカテゴリーでは、U21 男子日本代表が 2024 年 8 月の FIBA 3x3 U21 Nations League 2024 Asia、U23 男子日本代表が 2024 年 9 月の FIBA 3x3 U23 World Cup 2024、2025 年 6 月の FIBA 3x3 U21 Nations League 2025 Asia に出場した。U21 Nations League では全 6 STOP 中、2 位 2 回、3 位 2 回となり、2024 年 6 月に開催された U23 Nations League（総合 2 位）と合わせたツアーポイントの結果により U23 World Cup への出場権を獲得した。U23 World Cup では予選プール初戦で中国に黒星を喫したが、その後地元モンゴル戦を含めて 3 連勝し、予選プール 1 位で決勝トーナメントに進出。準々決勝ではリトアニアに僅差で敗れたものの最終順位は 5 位と過去最高成績となった。また 2025 シーズンの 2025 年 6 月には、FIBA 3x3 U21 Nations League 2025 Asia で総

合 2 位となり、2025 年 9 月の U23 World Cup 出場に可能性を残した。

4. 3x3 女子日本代表活動概況

男子同様にパリオリンピック出場を逃した 3x3 女子日本代表（A 代表）も、ロサンゼルスオリンピック出場を目指し、同じく「世界転戦」「長期的・継続的」「同一メンバー」をベースにシーズンに臨んだ。女子は FIBA3x3 Asia Cup 2024、FIBA3x3 World Cup 2025 の二つの大会に加え、2 シーズンぶりとなる Women's Series にも参加し、競技力向上、ポイント獲得を目指して活動に取り組んだ。

Asia Cup では、3x3 経験豊富な 3 選手に大学生 1 選手を加えた布陣で臨み、決勝でオーストラリアに敗れたものの、過去最高の準優勝となった。また 2 シーズンぶりに出場した Women's Series Ulaanbaatar stop 2024 には、新たに W リーグ所属選手を中心とした編成で臨み、予選プールを 1 勝 1 敗の 2 位で準々決勝に進出するも、準優勝したアメリカに敗れて 8 位に終わった。続いて臨んだ World Cup では、予選プールで優勝したオランダに勝利したものの、決勝トーナメント進出を賭けた PLAY-IN で今大会 3 位のカナダに敗れ、最終順位は 9 位で大会を終えた。

アンダーカテゴリーでは、U21 代表が FIBA3x3 U21 Nations League 2024 Asia、U23 代表が FIBA3x3 U23 World Cup 2024、U21 代表が FIBA3x3 U21 Nations League 2025 Asia、U18 代表が FIBA3x3 U18 World Cup 2024 に出場した。

U21 Nations League では、全 6STOP 中優勝 3 回、2 位 2 回、3 位 1 回の成績でツアー優勝し、U23 World Cup への出場権を獲得した。U23 World Cup では、予選プールで 7 位のスペインに勝利するも優勝したアメリカやイタリアに敗れ、予選プール敗退で最終順位 9 位に終わった。FIBA3x3 U18 World Cup 2024 では、準決勝で延長の末ドイツを破り決勝に駒を進めたが、決勝でアメリカに惜しくも敗れ、前回大会の 3 位を上回る準優勝で大会を終えた。また、2025 シーズンの FIBA3x3 U21 Nations League 2025 Asia では、総合 4 位の結果となった。

【2】国際

1. 国際会議派遣／国際人材輩出概況

2024 年 7 月に開催されたパリオリンピックは、国際的に重要なロビー活動の場となった。また、2025 年は FIBA サイクルの折り返し年となるため、2025 年 5 月にバーレーン・マナマにて FIBA 中期総会が開催された。現在 JBA はセントラルボード、委員会で合計 3 枠を維持しているが、2027 年の FIBA 改選時に議席を維持するためにどのような戦略を立てるか検討しなければならない。

また、更なる海外のネットワーク拡大を目的として、様々な部署から海外に派遣する機会を増やし、組織として世界的に活動を広めていくための基盤を構築する取り組みに着手している。

2. その他国際関連活動概況

パリオリンピックに向けた男女日本代表チームの強化活動としてヨーロッパ遠征などを調整。また、2024 年 9 月には中国・深圳で FIBA Women Basketball League Asia 2024 が初開催され、同大会に参加した W リーグ優勝チームの富士通を現地でサポートした。2025 年 6 月には BCL Asia がドバイで開催され、B リーグを制覇した宇都宮ブレックスが優勝、日本のクラブとしては初めて 2025 年 9 月に開催される FIBA インターコンチネンタルカップにアジア代表として出場することとなった。

2025 年 1 月には FIBA タスクフォース 2024 の会議を開催。10 年にわたり日本バスケットボール界の発展に寄与してきたタスクフォースが無事に解散されることとなった。今後の FIBA の日本への支援体制については、FIBA と意見交換を行いながら構築予定としている。

その他、パートナーシップを締結しているドイツおよびオーストラリアバスケットボール連盟との交流、FIBA アジアカップ 2025

予選の運営サポートなどを中心に対応。また、日本代表チームの強化に寄与すべく、2025 年 6 月には女子日本代表の中国遠征および U19 女子日本代表のクロアチア遠征など、2025 年度に向けた国際試合・遠征等の調整を進めた。

【3】育成

1. 選手育成事業概況

2024 年度は、U12 ブロック育成センター・U15 ブロック育成センターを通し、指導重点項目である「パスのファンダメンタルと状況判断」についての周知に努めた。また（大寒波による交通困難の影響で中止した）北信越ブロックを除く 8 ブロックで U14 ブロック交流活動を実施し、指導者の情報交換や選手のチャレンジ環境を創出した。U14 ナショナル育成センター・ジュニアユースアカデミーではトライアウト 1 回とキャンプ 2 回を実施し、選手発掘およびアンダーカテゴリー代表へのパスウェイを構築した。2025 年 6 月にはユース育成担当者会議を実施し、2025-26 年度のユース育成事業について伝達を行ったほか、育成センター事業の実態について内容を共有した。また、各カテゴリーコーチを対象に WEB 講習会を実施し、「長期的に選手育成する視点」や「選手コーチのコミュニケーション」等について学びの場を提供した。

その他、ユース育成部会では育成キャンプやブロック事業における今後の事業設計に関して継続的に意見交換を行い、より効果的な育成事業の実現へ向けて外部協力者と共に育成環境整備に努めた。

2. マンツーマン推進事業概況

2024 年 8 月の全中（全国中学校大会）ブロック大会、全中大会にてマンツーマンに関する講習会を実施し、都道府県・ブロック・全国大会での基準規則の共通認識を図った。年間を通しては、2024 年 8 月の全中大会、2025 年 1 月の全国 U15 選手権大会、3 月の全国ミニ大会にてマンツーマンコミッショナーの派遣・運営を行ったほか、2024 年 12 月にマンツーマンディレクター会議をオンライン開催、2025 年 6 月に周知資料を公式サイトに掲載するなどして、基準規則の理解を深めると共に周知徹底に努めた。

3. エリートコーチ養成事業概況

エリートコーチ養成部会を 5 回開催し、日本代表選手が所属するチームのコーチや日本代表チームに関わるコーチに対して伝達すべき指導内容やフィロソフィーについて検討し、特にシュートセレクションとファウルゲームについての議論を進めた。

【4】指導者

1. 指導者養成事業概況

指導者養成では、各種ライセンスに関する講習会や指導者の資質向上のための研修会などを企画・実施すると共に、コンテンツ作成にも取り組んだ。

また、都道府県協会指導者養成委員会とも連携し、各都道府県での D 級、C 級、キッズサポーター養成講習会、リフレッシュなどの開催を推進した。

(1) 講習会事業

講習会事業においては、年間を通して概ね例年同様に各種ライセンスの講習会を実施した。主なトピックスは以下の通り。

- ・コーチデベロッパー講習会について、近年の受講状況を鑑み、年間 2 回から 2025 年度以降は年間 1 回とする方針を決定
- ・キッズサポーターリーダー講習会について、近年の受講状況を鑑み、年間 3 回から 2025 年度以降は年間 1 回とする方針を決定
- ・D 級コーチの女性コースを継続実施（2 回目）
- ・トップリーグ向けの講習会については 2024 年度から D 級と C 級の隔年開催に変更

(2) 研修会事業

研修会事業においては、例年同様の事業を展開しつつ、事業の発展や新たな取り組みも行った。主なトピックスは以下の通り。

- ・女性コーチカンファレンスについて、審判グループとも連携し、女性コーチ&レフェリーカンファレンスとして拡大して開催
- ・C級・D級コーチ養成講習会の質の向上、平準化を企図し、コーチデベロッパー情報伝達会を新たに実施
- ・キッズサポーターリーダーの初めての更新年度を迎え、更新研修を実施
- ・コーチライセンスの更新制度の変更により新たに導入することになったライセンス別研修について、2024年12月よりeラーニングコンテンツとして展開

【5】 審判

1. 審判事業概況

2023年度より、「中長期で作りたい未来」として、「1.各種大会を運営するのに十分な審判員」、「2.登録審判員全体のレベルアップ」、「3.誇りとやりがいのある審判活動」を掲げ、これらを実現するための各種施策を実行。当年度の施策は以下の通り。

(1) 施策①インストラクター改革

トップリーグにおける審判員の評価基準統一を目的に、シーズン前から終了までT級審判インストラクターを対象に計4回のウェビナーを開催。また、インストラクターライセンス制度の改善をワーキンググループで検討した。現状を踏まえ、インストラクターライセンス取得者の活躍の場を拡大し、審判員を強化するための施策としてインストラクターの現場派遣などを2025年度から検討・実施する。

(2) 施策②割り当ての偏り改善

特定の審判員の稼働が多くなっていた背景から、全国大会に招集するS級審判員について、JBAと大会担当者間の調整で稼働過多を改善し、より多くの審判員が活躍できるよう努めた。また天皇杯・皇后杯1次ラウンドやU18日清食品リーグの派遣対象について、S級以外を推奨することでA・B級審判員の活躍を推進した。

(3) 施策③トップレフェリーの強化

プロフェッショナルレフェリー、FIBAレフェリー、トップリーグ担当審判員を対象とした強化事業を計5回実施。事前に映像クリップなど配布し、それについて全体またはスモールグループでのディスカッションを実施した。

(4) 施策④審判技術情報の共有推進

B・C・D・E級を対象に定期的な審判情報コンテンツのオンライン発信を計画。ウェビナーを計3回実施して審判技術の共有を行い、情報や技術の標準化を図った。

(5) 施策⑤女性審判員の普及・拡大

審判委員会女性分科会のメンバーを中心に各都道府県で女性審判員を3名ずつ増やすことを目的に、女性向け審判講習会を実施。結果として2023年度的女性登録審判員10,820名から2024年度は12,245名となり、1,425名増加した。

その他、大会の増加に伴い審判、審判インストラクターライセンスの登録者も増加。審判ライセンス登録者は59,632名（前年度比109%）、審判インストラクターライセンス登録者は3,760名（前年度比105%）に上った。

【6】 競技・運営

1. 国内競技会概況

(1) 天皇杯・皇后杯

「第 100 回天皇杯」のファイナルは、会場を代々木競技場第一体育館に移し、アルバルク東京と琉球ゴールデンキングスの対戦カードとなった。試合は決勝戦らしいディフェンシブな戦いとなり、3 年連続決勝進出の琉球ゴールデンキングスがアルバルク東京を退けて、悲願の天皇杯初優勝を成し遂げた。また 100 回の記念大会として、共催の共同通信や後援の NHK と様々な企画を実施。当日は 10,009 名と多くの方に来場頂き、大いに盛り上がった。

「第 91 回皇后杯」では、ファイナル初進出のアイシンウイングスと昨シーズンの W リーグチャンピオン富士通レッドウェーブが対戦。第 4 クォーター終盤までアイシンがリードしていたが、残り 3 分で富士通が逆転してそのままリードを守り切り、3 連覇を果たした 2008 年以来 17 大会ぶり 4 回目の優勝を飾った。

(2) U18 日清食品リーグ

U18 世代のトップチームが参戦できる「U18 日清食品トップリーグ」は、「U18 世代 3 冠」の権威が浸透。各地のアリーナでトップカードを開催することで競技普及を推進し、U18 世代と共に大会を創り上げた。「U18 日清食品ブロックリーグ」では、北海道、九州の 2 つのブロックを増設し、全国全 9 ブロックでの開催が実現した。そのうち「U18 日清食品 東海ブロックリーグ 2024」の男子では、クラブチームである名古屋ダイヤモンドフィズ U18 が優勝。今後も部活・クラブの垣根を越えたリーグ戦を目指すと共に、トーナメント大会とは異なるリーグ戦文化の導入により、U18 世代の育成・強化・普及に寄与する大会となるよう、中期方針を掲げて大会の更なる発展を目指す。

(3) ウインターカップ

「SoftBank ウインターカップ 2024」では、大会認知度向上に向けた露出拡大施策を実施。組み合わせ発表や開会式など、全国各地での露出拡大を促進し、大会認知が向上した。大会 7 日間合計の有料入場者数は、大会史上最多の 61,653 名を記録した。男子は福岡大学附属大濠高校が 3 年ぶり 4 回目の優勝。女子は京都精華学園高校が 3 年連続 3 回目の優勝を果たし、インターハイ、U18 日清食品トップリーグ 2024 に続き、高校バスケ 3 冠を達成して幕を閉じた。

(4) Jr.ウインターカップ（全国 U15 選手権大会）

「京王 Jr.ウインターカップ 2024-25」として、5 回目となる大会を実施した。男子決勝では琉球ゴールデンキングス U15 との接戦を制した RIZINGS 徳島が初優勝。女子決勝では HOOPS4HOPE を大差で退けた京都精華学園中学校が 2 連覇を果たした。毎年この大会に出場した注目の 3 年生達が翌年の SoftBank ウインターカップでも活躍しており、今後も多くの選手が一つ上のカテゴリーの舞台で活躍することを期待する。

(5) 全国ミニ大会

「第 56 回マクドナルド全国ミニバスケットボール大会」は、引き続き順位や優勝を争わない交歓大会の位置付けで開催。今後も選手各々が他県の選手のプレーを体感し交流することで、更なる向上心が芽生え、楽しくプレーできるきっかけとなることを期待する。一方で、小学生年代からの競技力向上を目的とした特別ルール「リング高 305cm、6 号ボール」の 2025 年度大会からの導入に向けて準備を進める。

2. 国際競技会（国内開催）概況

2024 年 7 月、有明アリーナ（東京都江東区）にて「三井不動産カップ 2024（東京大会）」としてニュージーランド代表を招いた女子日本代表戦、「SoftBank CUP 2024（東京大会）」として韓国代表を招いた男子日本代表戦を、男女同時開催で 4 日間にわたって実施した。パリオリンピックへの壮行的な一面も有したこの大会で、女子日本代表は 2 試合とも大差で勝利、男子日本代表は 1 勝 1 敗の結果となり、猛暑の中での開催であったものの、各日 1 万人を超える来場者を記録した。

2024 年 11 月には日環アリーナ（栃木県宇都宮市）にて、2025 年 8 月にサウジアラビアで開催予定の「FIBA アジアカップ 2025」の出場権を賭けた予選となる、FIBA 主催の「FIBA アジアカップ 2025 予選（Window2）」を開催。男子日本代表は、FIBA ランキング 108 位（2024 年 8 月 10 日時点）のモンゴル代表を相手に危なげなく勝ち切った。当該アリーナは最寄り駅から距離があったため、シャトルバスの運行手配や近隣駐車場を確保するなどして来場者がスムーズ

に移動できるよう努めた。

2025 年 6 月には豊田合成記念体育館エントリオ（愛知県稲沢市）にて「三井不動産カップ 2025（愛知大会）」を開催。コーリー・ゲインズ HC の初陣となったこの大会、女子日本代表はチャイニーズ・タイペイ代表を相手に 2 試合続けて大差で勝利を収めた。また、同大会は稲沢市に後援を頂き、自治体としっかりと連携して円滑に運営することができた。

3. 3x3 国内大会概況

2024 年度は、全国 47 都道府県代表の頂点を決める「3x3 日本選手権」「3x3U18 日本選手権」の開催、「JAPAN TOUR」では 3x3 の特徴である「屋外」「ハイトラフィック」での開催に加え、YouTube での LIVE 配信を通じて来場者以外にも試合を観戦して頂く機会を創出するなど、環境作りに取り組んだ。また、2025 年度以降の「JAPAN TOUR」や「日本選手権」「3x3U18 日本選手権」、「国内の登録スキーム」の変更に向けて、ロサンゼルスオリンピック日本代表活動と大会開催を連動させた計画策定を行った 1 年となった。

(1) JAPAN TOUR 2024/2025

JAPAN TOUR は 4～11 月を 1 シーズンとして開催するため、当年度は 2024 年シーズンの「JAPAN TOUR 2024」後半を 2024 年 7～11 月に開催し、「JAPAN TOUR FINAL」の冠協賛社である三井不動産所有の商業施設「コレド室町テラス大屋根広場」を始め、「ららぽーと豊洲」、FINAL は大阪・堺の「ららぽーと堺・スタジアムコート」を活用。また、より多くの方に 3x3 を認知して頂くため、JR 博多駅大屋根広場や上野恩賜公園噴水広場など屋外かつハイトラフィックな場所での開催にも積極的に取り組んだ。シーズン途中の「RoundUp」「ファイナル」の優勝チームには「FIBA 3x3 Challenger 2024」の出場権、ツアーファイナル優勝チームには「FIBA 3x3 Challenger 2025」の出場権を付与した。2025 年シーズンについては、U23 世代の活性化、選手発掘・育成を目的として、これまでのトップカテゴリー「EXTREME」を「U23」へと変更して 2025 年 7 月～2026 年 2 月開催にスキームを変更したため、2025 年 5 月にプレ大会を実施し、同会場で三井不動産独自の 3x3 大会も実施するなど、パートナー企業とのコラボレーションを実現した。

また、トップカテゴリーの EXTREME、U23 のほか、全国から OPEN/CHALLENGE の開催地を募集して普及に努めた。

(2) 3x3 日本選手権（U18/OPEN）

3x3 日本選手権は、U18/OPEN 共に前年度に続き大森ベルポートにて開催。予選大会となる東中西の各エリア大会は 12～1 月での開催となった。

U18 日本選手権は、ストリートで活躍する 3x3 の選手達に加え、各都道府県で 5 人制でも上位に入賞する選手も多く参加するなど競技レベルの向上が見られた。

日本選手権は、国内トップレベルの 3x3 チームが参加してハイレベルなプレーを展開して観客を魅了した。優勝した男子チームには「FIBA3x3 ワールドツアー・マスターズ 2025 アジア・オセアニア大陸予選大会」への出場権を付与した。

その他、普及的位置付けとして、自治体や外郭団体とのコラボレーションイベントにも積極的に取り組み、3x3 の普及および認知度向上に寄与した。

【7】 普及・啓発活動

1. 普及事業概況

学校体育への取り組みとして、オンラインでの授業研究会を開催。今回は、広く小学校・中学校・高校・大学での授業展開事例の紹介を行った。

また、「バスケットボールチャレンジデー」として、未就学児向けのバスケットボール体験イベントおよび一般向けのシュートチャレンジイベントを開催すると共に、PBA ウェブサイトの UI・UX 改善のため、希望する PBA に対し、共通 CMS への移行を推進した。

2. 各種啓発活動概況

アンチ・ドーピング活動として、日本アンチ・ドーピング機構（JADA）と連携し、主な国内競技会（Bリーグ・Wリーグ・天皇杯皇后杯）および国内で開催される国際大会におけるドーピング・コントロールを実施。男女各カテゴリーにおける日本代表強化合宿ではアンチ・ドーピング教育の時間を設け、強化選手・スタッフ向けの啓発活動を行った。

また、バスケットボール活動現場における暴力・暴言・ハラスメント行為等の根絶に向けた啓発活動として、PBA 主催の予防・啓発の取り組みをサポートした。具体的には、主に指導者や審判員、保護者等の各 PBA に所属するバスケットボールファミリー対象の研修会・講習会への講師斡旋や資料の提供等を行った。

今後も引き続き「バスケットボールファミリー安心安全保護宣言」に基づいた、より良いバスケットボール環境の構築を目指し、関係各所と連携・協力して事業を展開していく。

【8】 認定および登録管理

1. コーチライセンス概況（2024 年度：2024 年 4 月～2025 年 3 月）

E-1 級・E-2 級ライセンスが 2023 年度で有効期間満了となったことにより、コーチ登録数については 67,293 人と大幅に減少（前年比-14,581 人／82.2%）。ただし D 級以上の人数は、各都道府県での D 級、C 級コーチ養成講習会の開催により、前年比 1,629 人／106.2%（S（F）級、A（F）級、B（F）級コーチを除く）に増加した。

その他のライセンスでは、キッズサポーターライセンス取得者が 2,000 人に達した。

【コーチ登録数】（単位：人）

S 級※	A 級※	B 級※	C 級	D 級	E 級	合計
185	403	1,402	12,045	13,815	39,443	67,293

※ S（F）級、A（F）級、B（F）級コーチを含む

コーチデベロッパー	ジュニアエキスパート	キッズサポーター	キッズサポートリーダー	キッズサポートマスター
294	83	2,000	138	3

2. 審判ライセンス概況（2024 年度：2024 年 4 月～2025 年 3 月）

審判ライセンス取得者（登録数）は前年度比 5,003 人増（109%）の 59,632 人、審判インストラクターライセンス取得者（登録数）は前年度比 182 人増（105%）の 3,760 人となった。

【審判登録数】（単位：人）

S 級	A 級	B 級	C 級	D 級	E 級	合計
161	357	4,808	9,239	12,986	32,081	59,632

【審判インストラクター登録数】（単位：人）

T 級	1 級	2 級	3 級	合計
28	193	382	3,157	3,760

3. チーム、競技者（3x3 を含む）の登録概況（2024 年度：2024 年 4 月～2025 年 3 月）

全般的には前年度を上回る登録実績だったものの、コロナ禍前の登録数まではまだ回復できていない状況が続いている。カテゴリー別の特徴として、U15 についてはチーム数・競技者数共に中学校は減少し、クラブは増加した。U18 についてはチーム数・競技者数共に減少しており、全日制高校は▲96 チームと、高校の統廃合の影響が考えられる。登録初年度となった一般（Ⅱ種）に関しては、Ⅰ種のみではチーム数・競技者数共に減少したが、Ⅱ種を含めた一般全体ではチーム数・競技者数共に増加した。

【チーム加盟数】

	2024 年度	2023 年度	前年度比	
U12	8,341	8,341	100.0%	±0
U15	13,394	13,345	100.4%	+49
U18	7,496	7,593	98.7%	▲97
一般（Ⅰ種）	3,162	3,268	96.8%	▲106
一般（Ⅱ種）	618	0	-	+618
計	33,011	32,547	101.4%	+464

【競技者登録数】（単位：人）

	2024 年度	2023 年度	前年度比	
U12	166,334	162,493	102.4%	+3,841
U15	225,174	227,293	99.1%	▲2,119
U18	131,939	132,765	99.4%	▲826
一般（Ⅰ種）	47,482	50,678	93.7%	▲3,196
一般（Ⅱ種）	9,397	0	-	+9,397
計	580,326	573,229	101.2%	+7,097

【3x3 登録数】（単位：人）

	2024 年度	2023 年度	前年度比	
3x3	2,434	2,033	119.7%	+401

4. TO の登録（2024 年度：2024 年 4 月～2025 年 3 月）

TO の普及育成を目的として、2023 年度より TO ライセンスの認定を開始。国内トップリーグ等において活動する TO に対し、B 級 TO ライセンスの取得と JBA 登録を必須化した。また、都道府県等で開催される大会において、主に TO を担当する競技者向けに「TO 基礎講習（e ラーニング）」を開始した。更に 2024 年度より、B 級 TO の養成に係る TO 実技講習会の講師に対し、TO インストラクターライセンスの取得と JBA 登録を必須化した。今後は TO 基礎講習修了者と B 級 TO の登録推進、また A 級 TO ライセンス認定と登録に向けた取り組みを強化していく。

【TO 登録数】（単位：人）

ライセンス等	2024 年度	2023 年度	前年度比	
JBA 公認 TO インストラクター	117	—	—	+117
JBA 公認 B 級 TO	1,021	872	117%	+149
TO 基礎講習修了者	7,198	1,052	684%	+6,146

5. エージェントの登録（2024 年度：2024 年 4 月～2025 年 3 月）

2023 年 1 月 1 日より施行されたエージェント規則に基づき、2023 年度からエージェント登録を必須化した。2024 年度の新規登録者数は FIBA ライセンス保有者 25 人、FIBA ライセンスを保有しないエージェント 16 人の計 41 人、加えて更新登録者数は FIBA ライセンス保有者 72 人、FIBA ライセンスを保有しないエージェント 29 人となり、有効登録者数は計 142 人であった。

6. その他

(1) 2024 年度以降のチーム加盟・競技者登録制度について

2018 年度の登録制度の再構築から 5 年が経過し、社会情勢や環境、スポーツの在り方や価値が変化している中、現状の課題解決とより良い環境作りのため、現行登録制度等の見直しを行った。バスケットボールを行う環境をより整備、充実させていくため、2024 年度より登録制度の一部改定（一般Ⅱ種のカテゴリーの追加、都道府県協会チーム加盟料・競技者登録料上限額の変更）を行った。

(2) 令和 6 年能登半島地震について

令和 6 年能登半島地震において最も被害が大きかった石川県に対し、石川県バスケットボール協会を通じた被災地におけるバスケットボール環境の整備およびバスケットボール事業活動支援のため、下記施策を実施した。

- ・石川県における 2024 年度の登録料（チーム、競技者、指導者、審判）の免除
- ・石川県バスケットボール協会への同県 2024 年度登録料収入相当額（推計額）の補助
- ・石川県バスケットボール協会への補助金 100 万円の交付

【9】組織運営

1. 諸会議の開催、運営概況

2024 年度の諸会議（評議員会、理事会、専門委員会等各種委員会）の運営については、コロナ禍以降スタンダードとなった WEB（オンライン）会議、ハイブリッド会議を適宜活用し、通年で活発に実施された。

特筆すべき事項としては、2023 年度に設置された特別委員会「将来構想委員会」下の部会「スポーツ団体ガバナンスコード対応検討部会」による答申に基づき、（関連規程改定の上）例年より早い段階で役員候補者選考委員会が設置され、次期役員候補者の選考を開始したこと、また、同じく同部会の答申に基づき、理事会の一部権限を事務総長に移行するなどして「経営と執行の分離」を推し進め、それに伴い各種委員会構成を改編して 2025 年度から新たな枠組みによる組織運営、諸会議運営が行われることになったことなどが挙げられる。

2. アンダーカテゴリー部会の運営概況

2024 年度も引き続き、U12/U15/U18 各カテゴリーにおける諸活動の監理、競技会委員会等と連携した諸課題の解決に向けた中期方針の策定・推進、執行会議・全国部会長会議など各カテゴリー部会の会議体運営の他、PBA 各部会長と連携した実態把握と課題解決に努めた。

U12 カテゴリー部会では、バスケットボールを楽しむ競技環境を整えるため、2024 年 7 月の全国部会長会議において益子直美氏をお招きし、「小学生年代のスポーツの関わり方とより良い競技環境に向けて」というテーマで研修会を行った。また、9ブロックでの足育・足守事業（講習会）の開催や U12 競技会における特別ルールの導入検討に向けた協議を行い、一定上の方針を示した。

U15 カテゴリー部会では、昨今の中学校運動部活動地域移行や競技者登録状況など U15 世代における環境の変化と、U15 クラブチームの増加に伴う諸問題等へ対応するため、「U15 カテゴリー中期方針 2025」を策定した。今後は中期方針に則り、その推進に向けた施策を展開していく。

U18 カテゴリー部会では、U18 日清食品リーグ中期方針に則り、都道府県・ブロック・トップが繋がるリーグ構造の実現に向けた具体策を検討した。今後はリーグ戦文化の醸成と共に、U18 カテゴリーの競技環境の見直し等を検討していく。

3. コンプライアンス推進事業（裁定・規律委員会事業／暴力行為等通報窓口）の概況

裁定委員会・規律委員会では、主に JBA に登録する指導者・審判員による倫理規程違反に関する調査・事実認定を行って懲罰案を答申しているが、暴力行為等通報窓口への通報件数増加に比例して案件も多様化・複雑化しており、調査や審議に掛ける時間が増加した。

通報対応においては、被害者や通報者に寄り添った対応を心掛けると共に、裁定委員会・規律委員会や都道府県協会・Bリーグ・各種の連盟とも連携し、迅速かつ適正な手続きによる懲罰や注意喚起等を行った。

今後も適正な手続きの下、バスケットボール界における秩序維持・コンプライアンス向上を図り、具体的な再発防止策や規程整備等のガバナンス強化を都道府県協会・Bリーグ・各種の連盟も巻き込んで推進していく。

4. D-fund 制度の運用概況

2024 年度（2024 年 4 月～2025 年 3 月）の D-fund 制度運用にあたっては、前年度までの運用から見直しを図り、2024 年度から 2026 年度までの 3 か年を適用期間と捉え、抜本的に変更を行った。具体的には、ファンド A については JBA と PBA が取り組むべき事業「普及・登録推進事業等」を対象事業とすることとし、6 つの区分（キッズサポーター講習会、キッズ対象活動事業、登録推進事業、暴言暴力等撲滅に向けた対応支援、裁定・規律案件における対応支援、中学校運動部活動地域移行化に向けた支援、HP や SNS 等の開発・運用の支援）を設定。ファンド B については 1PBA あたり一律 500 万円を設定した（北海道協会のみ 1 都道府県＝1 ブロック単位のため、4PBA 扱い）。ファンド A の上限額については、前々年度のチーム加盟数・競技者登録数・1 チームあたりの指導者数・1 チームあたりの審判員数をポイント化して算出し、各 PBA はクラス毎（5 段階）に設定されたファンド A 上限額内で対象事業を申請するものとした。またファンド A 上限額の 30%を上限として、ファンド A からファンド B への付け替えを可能とした。その他 D-fund とは別途、PBA 基盤強化費として PBA 振興費、全国大会審判派遣補助費の交付を行った。

【10】 その他事業

1. 出版物等販売事業概況

2024 年度は公式スコアシート、公式スコアブックの販売売上が前年度比で 139%となった。また、隔年発行のオフィシャルズ・マニュアルについては 2025 年版が発行された影響もあり、競技規則と合わせ前年度比 137%程度となり、出版物販売全体として、前年度比 138%程度の売り上げとなった。更に 2025 年 3 月より、JBA 公式オンラインストアでの販売に集約した。

2. BtoC 事業概況

2023 年度に引き続き、日本代表および主管大会におけるチケット・MD の売上最大化と AKATSUKI JAPAN を始めとする JBA ブランドの露出浸透を図った。またファンクラブ運営においても、チケットと連動させるなどの取り組みにより、過去最高の会員数となった。

【11】 広報

1. 広報活動概況

2024 年度最大のトピックスは、2024 年夏に開催されたパリオリンピックへの 5 人制男女日本代表チームの出場であった。JBA 広報 PR セクションとしては、スポンサー各社等の協力を得て、大会への準備段階を含めて男女日本代表の認知度アップ・価値向上に努めた。限られた人手の中で、業務委託・外部スタッフの助けも借りながら 3x3 を含めた各日本代表チームに広報 PR 主担当を配置し、チーム密着型で濃密な広報 PR 活動を展開できるように努めた。それにより内外のメディアコンテンツにおいてそれぞれ露出向上が果たされ、国内バスケットボールファンのみならず、一般スポーツファンの間でも認知度が向上したことは明らかであり、当セクションの施策は一定程度以上の成功を得たと考えられる。

一方、JBA 内各グループの施策についても各部門と協働し、昨年度に引き続きレフェリー活動に関するメディアブリーフィングを実施するなど、各グループ活動を後押しした。今後も引き続き各グループとの密接な連携を強化し、前向きな姿勢で JBA の内部広報 PR 活動についても一層推進していきたい。

2. 対メディア活動概況

対メディアに関しては、頻度の高い日本代表メディア公開デーを実施するなどしてより関係を深め、また各大会期間中においてもメディアとの会話を大切に、メディアと JBA との相互理解のある報道に結び付けるべく努力した。その結果、概ね理解のある・好意的な露出を果たすことができた。今後はアンダーカテゴリーを含む日本代表選手やウインターカップ出場チームの地元、あるいは天皇杯・皇后杯開催地などのローカルメディアを含め、より広い範囲でのリレーションの構築・深化に努めていきたい。

以上